

執筆規定

1. 多様な文化の相互作用、異文化コミュニケーション、およびそれらの関連領域を研究する方は自由に投稿できます。
2. 提出される論文、研究ノート、文献研究、実践報告等の内容及び文体は学術誌として相応しいもので、他誌に未掲載かつ掲載予定なしのものに限ります。
3. 投稿された原稿を掲載するか否かは編集委員会で判断します。また、書き直しをお願いすることがあります。
4. 原稿は採否に関わらず原則としてお返ししません。採用された原稿は刊行後、電子化および公開(委託も含む)されます。
5. 原稿は原則として和文とします。
6. 論文原稿の長さは原則として 400 字詰め原稿用紙 30 枚分とします。ただし、研究ノート、文献研究、実践報告等の場合は 20 枚分とします。長すぎる場合は書き直しをお願いすることがあります。
7. 原稿提出期限は 10 月 31 日とします。
8. 原稿には、200 語程度の英文要旨とキーワード 3～5 語(日本語)を添えてください。
9. 原稿には英文題名をつけてください。
10. 注は本文中に付した番号の順に、本文の次に一括し、参考文献は、最初に和文文献(著者名五十音順)、次に欧文献(著者名アルファベット順、APA スタイル (American Psychological Association, 4th ed., 1998) に準ずる)の順に示してください。なお、体裁は、「引用・参考文献表記法」を参照してください。
11. 原稿はワードないしテキスト形式の添付ファイルとして E-mail でお送りください。ただし、E-mail をお持ちでない方はオリジナル原稿 1 部と、そのデータを郵送にてご提出ください。
12. 校正は初稿に限り執筆者が行います。この際の加筆・訂正は必ず植字上の誤りに関するもののみとし、内容に関する加筆・訂正は認めません。また、再校以降は編集委員に一任していただきます。
13. 執筆者には本誌を 10 部まで無料で進呈します。
14. 原稿に関するお問い合わせ、及び原稿の提出先は下記宛にお願いします。

神田外語大学
異文化コミュニケーション研究所
〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1
Tel/Fax: 043-273-2324
E-mail: icci@kanda.kuis.ac.jp

引用・参考文献表記法

A) 文中の引用は以下のようにする。

- 和書一(山崎 1997、25 頁) / (ベイトソン・ロイシュ 1998)
- 洋書一(Gurman, 1989, p. 34) / (Strunk & White, 1979)

B) 参考文献は文末に一括して下記のように記載する。

(1) 和書単行本

和辻哲郎 (1935) 『風土』岩波書店、1 頁。

(2) 和書編著書に収録された論文

松本耿郎 (1989) 「言葉・存在・認識」黒田壽郎 編『地域研究の方法と中東学』(111-113 頁) 三修社。

(3) 和文論文

神山四郎 (1989) 「福沢諭吉の西洋理解」『異文化コミュニケーション研究』1 号、20-21 頁。

(4) 翻訳書

ホール、E. T. (國弘正雄 訳) (1966) 『沈黙のことば』南雲堂。

(5) 洋書単行本

Strunk, W., Jr., & White, E. B. (1979). *The elements of style* (3rd ed.). New York: Macmillan.

(6) 洋書編著書に収録された論文

Gurman, A. S., & Kniskern, D. P. (1981). Family therapy outcome research: Knowns and unknowns. In A. S. Gurman & D. P. Kniskern (Eds.), *Handbook of family therapy* (pp. 742-775). New York: Brunner / Mazel.

(7) 欧文論文

Paivio, A. (1975). Perceptual comparisons through the mind's eye. *Memory & Cognition*, 3, 635-647.

(8) 著者・編者が複数の場合

佐伯彰一・芳賀徹 編 (1987) 『外国人による日本論の名著』中央公論社。

古田暁 監修、石井敏・岡部朗一・久米昭元 (1987) 『異文化コミュニケーション』有斐閣。

ベイトソン、G・ロイシュ、J. (佐藤悦子・ボスバーグ、R. 訳) (1995) 『精神のコミュニケーション』新思索社。